埼玉県立和光南特別支援学校　　令和３年７月１５日発行　NO.４

和光南だより

〒351-0106　埼玉県和光市広沢４番５号
電話 048（465）9780　FAX 048（460）1016

学校教育目標「仲間とともに　心豊かに　たくましく」

「三月余りを経て」

校長　矼　秀年

四月の始業式から数えて早や三月余りを経て、夏休みまで後１週間となりました。本来ならば、大はしゃぎしたいところではありますが、今年もそうはいかないようです。依然として、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。最近では新型のデルタ株がまん延し始め、新たな不安材料が追加されたように感じます。学校の教育活動のみならず、あらゆる社会生活の隅々で様々な制約が課せられ、自粛する日々には「もううんざりだ！」と、叫びたいのは私だけのことでしょうか。昨年度は、四月の臨時休業に始まり、学校行事のほとんどが中止になったと伺っておりました。それゆえ、本年度は年間指導計画に予定された学校行事は、可能な限り実施していきたいと思っております。なぜなら、運動会や遠足、宿泊研修、事業所見学などの学校行事は、子ども達にとって必要で重要な学びだからです。普段では体験できない貴重な機会であり、仲間とともに味わった経験によって自己が形づくられていきます。このことを念頭に、夏休みを迎えるにあたり、今一度、本校の教育活動の基本的なところから捉え返してみます。

本校の「学校教育目標」は、「仲間とともに　心ゆたかに　たくましく」とあります。では、「心ゆたかに」の心が豊かな状態とは、どのようなことなのでしょうか。まずはこれについて、私なりに考えてみました。

皆さんは『赤毛のアン』*1）を読んだことがあるでしょうか。これに次のような件があります。ある日のこと、アンが大好きなチョコレートキャラメルを養父のマシュウがアンに買ってくれたとき、養母のマリラからいちどきに食べないようにとたしなめられます。するとアンは次のように答えます。

「『ええ、いちどきになんか食べないわ』アンは夢中になって言った。『今晩は一つだけにしておくわ、マリラ。それからこれ、半分はダイアナにあげてもいいでしょう？そうしたら、あとの半分は倍もおいしくなるわ。』」*2）

と、腹心の友であるダイアナにあげるものができたと嬉しがるのです。この物語では、全体を通してアンのこうした想像力と表現力の豊かさに周囲が影響されていく様子を感じ取ることができます。私にとって、とりわけ印象深いシーンがこの一節で、「あとの半分は倍もおいしくなるわ」のアンの言葉が、「心ゆたか」とは何かを端的に示してくれているような気がしてなりません。みなさんはいかがでしょうか。

児童生徒のみなさんが、仲間とともに心ゆたかにたくましくなるための素敵な経験がたくさんできるように、一層の感染防止対策を講じつつ、教育活動を運営・実施して参ります。今後とも引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

*1）『赤毛のアン』モンゴメリ著／村岡花子訳（昭和 29 年７月 28 日／新潮社）　*2）同上書　P117